

令和6年10月 市長定例記者会見

令和6年10月7日(月)

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 最初に、9月21日の能登半島豪雨によりまして石川県能登地方で甚大な被害が発生をいたしました。亡くなられた方々とそのご遺族に対しまして謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

敦賀市といたしましても県等と連携をしながら、緊急消防援助隊、それから給水車の派遣を行っております。今後も可能な限り復旧に向けた支援を行いたいと思っております。一日も早い復旧・復興をお祈りしております。

それから、今月、10月1日に石破茂氏が総理大臣に就任されました。心からお祝いを申し上げたいと思います。もうすぐ選挙ということになるかもしれませんが、新内閣におかれましては、いろいろ山積する課題というものもあると思いますので、国民に寄り添い、迅速に対応をいただきたいと思っております。

また、敦賀市長は全原協の会長をずっとお預かりしておりますけれども、エネルギー政策については国家の根幹に関わる分野ですので、将来に向けたエネルギー政策、それから原子力政策を責任を持って実行していただきたいということを強く望んでおります。

それから、これもまた10月1日からということになりますけれども、北陸デスティネーションキャンペーン、大型の観光企画が始まっております。いろんな取組があるんですけども、その一つとして10月5日から、小浜線の敦賀駅と兵庫県の城崎温泉駅間を結ぶ観光列車「はなあかり」が運行されます。これに合わせて沿線の嶺南6市町では、特産品の販売など嶺南地域の魅力を発信するという取組を行っております。このような企画を地域経済の活性化につなげていきながら、北陸新幹線の敦賀開業効果を継続して、皆さんと一緒に敦賀を盛り上げていきたいと考えております。

冒頭、私からは以上です。

【広報広聴課長】 本日は事業発表はございません。フリーの質問対応に移りたいと思います。

【記者】 事態流動的などころではあるんですけども、衆議院議員総選挙、間もなく公示というところで、昨日は地元の選出の高木毅現職に自民党の公認は出ないという決定が

出ました。市長も選挙のときは自民党の推薦を受けられていたかと思うんですけども、その中で、まだ自民党が独自の候補者を立てるかどうかが分からない中で言える範囲というのは相当狭いかとは思いますが、当日の応援だったりそういった中で考え方の整理、例えば現職に行くのが優先だとか、いろいろ自分の中での考え方があったりとか、今おっしゃっていただける範囲のことがあれば教えてください。

【市長】 これからまだ、構図もしっかり福井2区に関しては決まっていないというところもありますので、発言は慎重にしなければいけないと、選挙のことですから、思っていますけれども、昨日の公認の話については私も驚きましたし、ただ、高木さんの発言でも、説明をしなければいけないところは説明していくんだという話がありましたから、これは本人にしかできないことですので、そういうところは選挙に向けてしっかりと有権者に向けてされるんだろうなと思っています。

あと、昨日、あのニュースを見てからちょっと思うところで言いますと、こういう公認というのはもともと政治資金の不記載の問題から端を発しているということになると思うんですけども、我々からすると、国政選挙の中では、やはり現在の与党も野党も、これから日本をどうしていくんだというところをしっかりと政策論争をしていただきたいと思っているんですね。

例えば社会保障の問題ですとか、それから人口減少、少子化の問題ですとか、あと先ほども言いましたけれどもエネルギーの問題、それから我々地方行政を預かる身からすると、例えば石破氏は総裁選挙のときからも、それから施政方針演説でも地方創生のことを言われています。また、地方こそ成長の主役だということで、地方創生に係る交付金は倍増するというおっしゃられていて、野党も同じような形で地方をどうするのかということについては政策を出してほしいですし、我々としてはそういう本格的な政策論争というのを見る、そういう選挙になってほしいなということをおっしゃっていますので、政治資金の問題は政治資金の問題で、新聞をよくよく見ていると与党でも野党でも同じような話が出てきているので、これはこれでしっかりルールを守るんだということをおっしゃるともやっていたらいいとは思いますが、やはり選挙というのは、私としては政策論争というのはしっかりやっていたらいい、それを見て有権者の方が投票するような、そういう形になってほしいなと思っています。

テレビでこれから多分こういう不記載の問題というのは大きく時間を割いて議論されることにもなると思うんですけども、私としては、どの政党がどういう政策をするんだら

うというところを見ることのできるような選挙戦であったりとか報道であってほしいと思っています。

【記者】 ご自身のスタンスというところに関してはまだ本当に慎重に構図が固まってからということですね。

【市長】 そうですね。まだどなたが出るのかとかそういうことも分かっていませんし、基本的には我々ずっとこれまで、私、1年半過ぎましたけれども、例えば東京のほうで要望活動とかをするときには高木氏に大変お世話になってますので、そういう意味では頑張っていたきたいと思います。

それにしても、いろんな、これからどういう政策というのを候補者としても出されていくということになると思うので、そういうところには構図も決まって、そういう主張というのは楽しみに見てみたいと思っています。

【記者】 今の関連なんですけれども、今までは現職のところに敦賀市としては、例えば市長とか副市長とかが行かれていたとか。これまではどうだったんでしょうか、国政のとき。

【市長】 これまでは、そのときに政権を取っているのはどの党だとか、そういうこともいろいろあったんだと思うんですけれども、最近で言うと、今の自公政権で言うと現職のところに、出陣式とかそういうときには行っていることが多かったような気がします。

【記者】 現職であり、かつ政権与党という、大体その理由でしょうか。

【市長】 ということだったんですかね。そのときそのときの市長個人のお考えというのもあったかもしれませんが、近隣の他市町を見てもそうされているところが多いんじゃないかなと思います。

【広報広聴課長】 続きまして、各社よりお願いいたします。

【記者】 関連になるんですけれども、昨日、自民党では高木氏の公認はしないということ、東京の党で決めるような話ですけれども、改めてこれに対して妥当かどうか、そこも含めて市長としてこの判断を自民党がしたということについてはどのようにお感じになっているでしょうか。

【市長】 そうですね。妥当かどうかというのは、これは私としては、自民党という党が決めたことなので、特にコメントすることはないんですけれども、感想で言うと少し驚いたというのはありますね。処分というのは一旦下って、しかも高木氏の場合は半年ということでそれが一旦終わっているというところからの選挙に向けてのこういう追加の措置と

いうことになりますから、それについて少し驚いたというのがあります。

【記者】 先日、高木議員が記者の囲みで、裏金問題の説明責任は一定程度果たせたもの
と
思っているということがありましたけれども、市長としてはその発言についてどう思わ
れるのでしょうか。

【市長】 多分そのときに同時に、と思うけれどもまだ説明を尽くしていきたいというよ
うに
続いていたと思うんですね。ですので、本人もそういうご意向でしたら、そのように
選
挙に向けてやっていかれるのは、それはそれでいいのではないかと考えています。

先ほども言いましたけれども、そればかりは本人にしかできないことだと思しますので、
本
人と有権者のコミュニケーションの中で説明をされるということについてはいいことな
の
ではないかと考えています。

【広報広聴課長】 それでは、以上をもちまして本日の市長定例記者会見を終了いたしま
す。

ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

13時41分終了